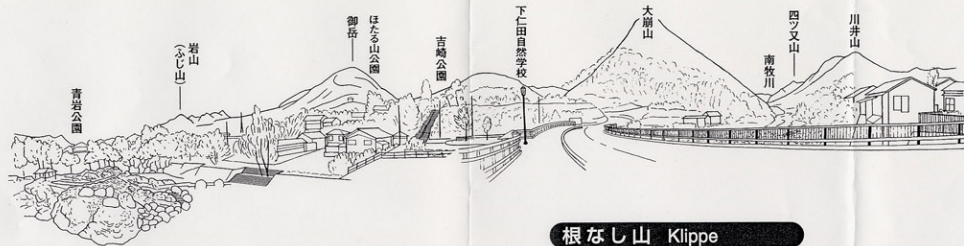


青岩と根なし山

Aoiwa and Klippe

地球の窓探索コース



青岩 Aoiwa

青岩公園の青い石畳をつくる岩石は、三波川結晶片岩とよばれ、緑色片岩に分類されます。青みがかった緑色をしているのは、この岩石のもとになっている火山灰や溶岩が変成岩になるとき、緑色の鉱物（緑泥石など）がつくられたからです。三波川結晶片岩類は、白亜紀初期（1億4千万年前）の地殻の大変動により、大洋底の堆積物の一部が大陸の下に引きこまれ、強い圧力をうけて変成岩になり、その後隆起して、古第三紀中ごろ（5千5百万年前）に、三波川変成帯として地表に姿をあらわしたといわれています。三波川変成帯は、中央構造線の南側にそって、紀伊半島、四国をとおって九州にまでたっています。

青岩の生いたちは、日本列島の形成と深くかかわっているのです。



根なし山 Klippe

下仁田の町並みの南側をとりまくように、岩山（ふじ山）、大山、御岳、大崩山、川井山がそびえています。これらの山が「根なし山」です。これらの山は、跡倉層（8千数百万年前の白亜紀後期）と、川井山石英閃緑岩（2億7千万年前のペルム紀）でつくられています。しかし、川すじなど低いところでは三波川結晶片岩類が見られ、その境は水平に近い断層で、断層面に近い部分の岩石は、ともにはげしく破碎されています。これは、跡倉層、川井山石英閃緑岩が下仁田から遠く離れたところでつくられ、その後の地殻変動で三波川結晶片岩類の上にずるずるとの上昇して、ここまで移動してきたことをしめています。このように移動してほかの岩体のにり上げ、その後の浸食作用でけずられ、残ったのが根なし山（クリッペ）です。

市街地から見た根なし山



下仁田町 Shimonita-machi